

札幌方面へと向かう際、当別町の玄関口で目にする2つのフクロウの大きな看板を、皆さんもご存知ですね。

そうです、一基は蕨岱(高さ約10m・幅約6m・片側の面積が約40㎡)、もう一基は札幌大橋の袂のビトエ(高さ約8m・幅約5メートル・片側の面積が約23㎡)に建てられている看板です。

森の象徴のフクロウをあしらいいずれも平成3年12月に設置されたものですが、光ファイバーで夜間には羽が開いたり閉じたりするほか、目がキョロキョロと動き、ひときわドライバーなどの目を引きつけています。

なお、看板は平成4年9月、「北海道屋外広告業団体連合会長賞」を受賞しています。

※エゾフクロウ・アオバズクには、頭上に耳状の羽根が付いていません。



#### ■道民の森のキャラクター「ふーちゃん」

道民の森のアイドルキャラクターとして、平成2年に「道民の森」の開園に合わせて道民から公募。220点の

応募の中から、「普段は木にじっとしているフクロウが、道民の森では大暴れしているイメージ」が評価されたものです。また、キャラクターの愛称は平成9年10月に、「ふーちゃん」と決まりました。

#### ■「当別YOSAKOIおどり隊」の旗



結成8年目を迎えるヨサコイチーム「当別YOSAKOIおどり隊」の旗は、結成以来、シンボルマークとして「フクロウ」を使っています。

ここ数年からは、フクロウの着ぐるみも登場。観客の目を楽しませています。

#### ■商店街活性化センター



空き店舗を使い、町民に文化活動の場として交流できる同センターのシャッターは、医療

大学の学生が描いたものです。また、各種イベントなどに活用できる自由空間「まちの駅 アウル」の名称は、一般的にフクロウを意味する

英語のow (アウル) にちなんだものです。

※このほかキャラクターとしてのフクロウは、町内の各企業などでも多く使われていますが、皆さんはどのくらい思い浮べることができるでしょうか？

#### ■「当別ふくろう展」

空き店舗を利用し、「縁起が良いと言われるフクロウで町おこしを」という思いから、本通振興会(久保義雄会長)の主催で開かれました。

フクロウにまつわる、手作りの木彫り・陶芸品のほか、壁掛け・はく製などが多数展示されたほか、写真展、まちづくりに関する講演会も開かれ、期間中は大勢の来場者でにぎわいました。



#### ■「当別ふくろうの会」での

##### 取り組み

「当別ふくろう展」での企画に関わった商工業者ら有志の中から、「フクロウを商店街の活性化に活かさないか」との声が上がり昨年3月、「当別ふくろうの会」が設立されました。

現在の会員数は約180人で、減少傾向にある町内のフクロウの保護を通じて生育を守る活動等を行っています。

また、フクロウの成長に必要な巣箱の設置、探鳥会を開いています。

さらに12月には、町内で撮影されたエゾフクロウの写真を使って、町内の四季を背景にフクロウの愛らしい表情を伝える今年のカレンダー「えぞふくろうの四季」を作成。その収益金は、巣箱掛けなどのフクロウの保護活動に役立てています。

#### ■「知恵ぶくろう」で

##### 「まちづくり」

会の設立時に大津会長が、「幸せを呼ぶ鳥とも言われるフクロウの助けを得ながら、町のために知恵を出し合いましよう」と述べた言葉は、おそらく「知恵ぶくろう」という語呂と結び付くものと考えられます。

町の発展などのため、行政・住民とともに考える「知恵」は、今後のまちづくりには不可欠なものとなるでしょう…。

フクロウを観察し続けておよそ2年になりましたが、道民の森や人里近くの森などを歩き回り、これまでに当別の森で約50体のフクロウを確認しています。もともとオロロン鳥などの海鳥を中心に撮影していたんですが、「エゾフクロウ」と出会って以来、興味がグンと湧きました。“カムくん・シリーちゃん”と私が名付けている、道民の森に棲むフクロウとは、今では4・5メートルの近距離まで接近でき、あたかも会話をしながら写真撮影をさせてくれる恋人のような存在になりました。フクロウは人間の表情によく似ていますが、幼鳥期は巣立ちをしてから2～3カ月は親鳥と一緒にいるため、成人まで親権がある人間の子育てにもよく類似しているんです。餌の獲り方を親鳥が教えているところなど、子育ての仕方を見ていると、フクロウの生態から

学ぶべきことが多いんです。今回のふくろう展では、私が撮影したエゾフクロウの大型写真2枚や、他の会員の方の写真も展示しますので、多くの方に気軽に、足を運んでもらいたいですね。



藤原 伸彦さん  
(当別ふくろうの会会員・野鳥写真愛好家)

大津 正一さん  
(当別ふくろうの会会長)

昨年3月に「当別ふくろうの会」を立ち上げましたが、町内だけでなく、江別・札幌・恵庭などの町外在住の会員も約50人在籍しています。去年は、3回にわたる探鳥会を開きましたが、特に道民の森で開催したときには、場所を移動しようとした際にフクロウがバスの前を横断し、まるで「俺が当別のフクロウだ」とでも言っているかのように存在感を見せつけられました。そのときは、泉町長も参加していましたが、約40人の会員が目当たりにしたフクロウに「可愛いー!」と、歓声を上げていました。今年の活動については現在、役員会で検討していますが、当会ではさらに、探鳥会などを通じて自然の大切さや人とフクロウが共生できる環境づくりを再認識してもらうほか、フクロウの町「当別」をよりアピールし、町の活性化



につなげていきたいと考えています。また、商工業者などを含めて、こうした活動を活かした“まちおこし”に尽力したいです。



## '03 当別ふくろう展

～冬フクロウは愛の季節

ふくろうと遊ぶ～

▼期間 2月8日(土)～16日(日)

▼会場

①「あえ～る」(弥生)

- 1) 置物・キーホルダーなどの「ふくろうグッズフェア」
- 2) 1月に東京で開催された『生きたフクロウ・ミミズクの世界展』出展の「ふくろうハガキ絵作品展」
- 3) 色を塗った紙を貼り合わせてフクロウの飾りを作る「ペーパークラフト講習会」

(8日のみ。13時～16時。申込・参加料などについての詳細は、「商工会」へ。)

※フクロウのパネルに顔をあて、記念撮影もできるコーナーもあります。(詳しくは、チラシでお知らせします。)

②当別郵便局(弥生)

写真・絵画・版画・藍染など、約50作品を展示。

▼時間 ①②ともに10時～17時(①は最終日のみ15時まで。)

②は日曜・祝日のみ15時まで。)

▼問合せ 商工会(☎3-2447)、または期間中のみ「あえ～る」(☎5-5116)へ。

